

## 南京大虐殺を問い続ける意味（発言要旨）

2019、3、8、衆院第1議員会館にて

田中 宏（ノーモア南京の会・東京）

### 1、南京大虐殺と私

- ・その年に生まれた者の宿命？ 1964年8月、「北京シンポジウム」の帰途、南京でのこと（一人で街に出ないで下さい／当時揚子江が真っ赤になったといわれる）

### 2、南京大虐殺から50年の1987年

- ・東史郎さんの登場、『わが南京プラトーン、一召集兵の体験した南京大虐殺』（青木書店）  
87年12月、東さん南京訪問（殴られる覚悟で…、どういう目にあってもいい…）
- ・教科書問題（82年）、ワ西独大統領の記念演説と中曽根首相の靖国公式参拝（85）
- ・85年8月15日（靖国参拝の日）、「侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館」（館名は鄧小平揮毫）、「侵華日軍第731部隊罪証陳列館」、ともに開館。
- ・1989年は名古屋市制百周年／名古屋と南京は友好都市（1978年締結、当時の本山政雄市長談：天津を要請するも神戸が決まっていた、中国側にお任せしたら南京が出てきて決定。南京訪問時、老婆が飛び出してきたことが…）。南京攻略戦の最高指揮官松井石根陸軍大将（A級戦犯で死刑となった7人の一人）は名古屋出身。
- ・新聞記事による資料集『南京大虐殺—その時名古屋は』（名古屋市制百周年を考える市民連絡会編、87年）出版。「市民の翼」で南京を訪問（88）／何故紀念館ができたのか→（高興祖教授は）日本の教科書問題です！、「ノーモア広島」の前に「ノーモア南京」が？→「ノーモア南京の会」誕生。

### 3、東史郎裁判と中国人元教師の任世淦先生（山東省）

- ・『わが南京プラトーン』出版から6年目の93年4月、「東史郎裁判」始まる。東さんの記述（郵便袋事件）で名誉を傷つけられたとして元戦友が東京地裁に提訴。
- ・偕行社板倉由明「筆者は、…『東日記』にある西本は貴方であると告げた。…この訴訟は一見西本氏個人の名誉回復を目的としているようだが、これを突破口として、…いわゆる『南京大虐殺』の虚構を明らかにできれば…、東—青木ラインに鉄槌を加える機会が、ようやく西本氏及びその家族の犠牲的行為によって訪れた…」と。
- ・東京地裁敗訴（96.4）、東京高裁敗訴（98.12）、最高裁敗訴（98.12）
- ・任先生、『東史郎日記（中国語版）』によく知る地名が多く、『日記』片手に現場検証、日記の各記述、史料と聞き取りによる裏付けに成功→先行和訳刊（17.12）

### 【関連出版物——いずれも特徴】

『南京大虐殺・証言を聞く東京集会報告集（2017年）』ノーモア南京の会、800円

『南京大虐殺・証言を聞く東京集会報告集（2018年）』ノーモア南京の会、800円

『東史郎日記と私』任世淦著・田中宏監訳、ノーモア南京の会、2000円